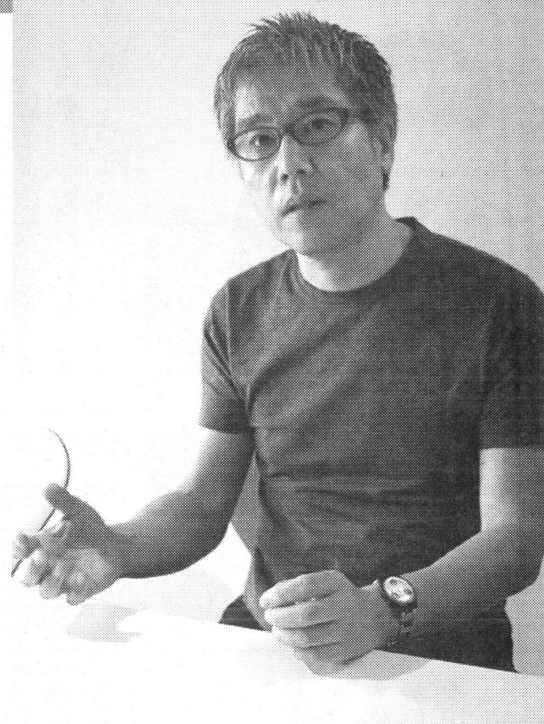


木材の長期活用によるCO₂固定、リノベーション(再生住宅と廃棄物削減、デザイン界の「和ブーム」時代の注目要素を体現する古民家再生住宅は、最近になってようやく「格好いい」と市民権を得つつある。今秋、(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センターが主催した住まいのリフォームコンクールで国土交通大臣賞、優秀賞の2つを受賞したのも、「古民家再生ネットワーク

ク」の代表、平井憲一さんの設計による古民家再生住宅。同ネットワークのホームページには、立ち上げから2年で5万3000件ものアクセス数があったそうだ。

「堺の家」で好評を呼んだこの庭も、再生前はその価値を家人の誰もが気づいておらず、施主の要望は母屋を二階建てにする形の改築だった。しかし、平井さんは現場を見た瞬間に、「この庭を活かせばさらに趣あ



平井憲一建築事務所 主宰(一級建築士) 平井 憲一 さん 古民家再生ネットワーク 代表

る住まいにできる、すごくいい現場だと感じました。もともとの環境・素材を活かしているのが、古民家再生の原点ですから」と言う。

素材を見極める目、発想を実現する技術と出会えば、古民家の可能性は一層広がる。古民家再生ネットワークに加盟する工務店も、伝統工法を知り尽くした宮大工、曳家(ひきや・移築のこと)業など、昔ながらの技能を今に伝える実力派ばかりだ。

平井さんが古民家再生の設計を始めたのは1980年。当時、平井さんの古民家再生の提案は、和と洋が混在する新たなデザイン性を評価されながらも、「暗くて寒くて汚いうちの家が、こんなに綺麗に住みやすそうになるとは思えない」ととても高価なのではないか」と、なかなか次の受注に結びつけずにいたそうだ。

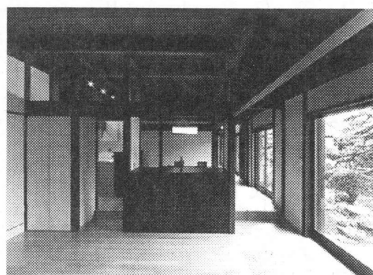
「もとの状態にもよりますが、価格は新築と比べて、坪5万円アップぐらいで、それ

古民家の生命力、次代につなぐ

ほど大幅な価格増ではないと思います。それに、土地の気候風土に馴染んだ材を使い、長い歳月を重ねてきた住宅には生命力が宿っており、梁や柱が醸す空気中得到たい落ち着きがある。一方、巷でよく見る、新建材をつかった白い外壁の見モダンな住宅は、10年もすれば汚れと傷みでひどい外観になってしまいうでしょうし、リフォーム代も半端ではなくかかる。30年もすれば建替え。古民家再生を始める前は私もそんなデザインに走っていましたから、よく分かるんです

よ【笑】」。

「優れた技術を持つ施工者が、後継者不足で年々減っているのがとても残念です。これから少しずつネットワークを広げ、100年以上保つ古民家再生住宅を次世代に残していきたい。それが私のライフワークです」と平井さんは語った。



(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センターが主催した住まいのリフォームコンクールで国土交通大臣賞を受賞した「堺の家」

【プロフィール】大阪府堺市出身、1951年生まれ。大阪市中央区安堂寺町に平井憲一建築事務所を構える。「もともとミュージシャン志望で、今も800枚のCD、500枚のレコードを持っています。音楽無しの人生は考えられない」。ロックからジャズ、フォーク、ボサノバとジャンルは広範囲。「私、欲張りなんですよ【笑】。でも、たくさんの良さを知っているって素敵でしょう?」。仕事も同じで、シンプルモダンの店舗・住宅から古民家再生、コンクリート打ちっぱなしのビル…と多分野を「欲張り」にこなす。

古民家再生ネットワークHP <http://kominka.ne.jp/>